

研究通信

No. 8

研究会 町部
部 室
研究 博士
部 文
会 本
社 区
編 大
東 京
東 京
社 会

再び来年度の

大会について

編集部

現在の村落社会研究会及びこの因における研究者の状態をもつては、大会は一年に一回以上もつことはできない。

それ故に全会員が一堂に会し、研究成果を発表する大会は最も有効かつ盛大にもたれなくてはならなくなる。昨年本研究会は仙台において第一回大会を盛會裡にもつを得たが、その席上において次回の大会の持ち方及び課題について二つの意見が発表された。

編集部としては前七号においてその大会の決議に従い、二つの意見を収録し、全会員の賛否、意見希望等を本部

までおよせ下さるようお願いしたのである。然るに我々の予期したよりは余りにも僅かの御返事しかうることのできなかった。編集部は来年度大会の成功の爲に再び二つの意見の要約を掲載し、会員の方々の御意見、御返事をまつ次第である。

A氏の場合

一つの意見としては、村研結成後余り日附も経ておらず、各地方に散在する人達が、夫々の問題を持って思い通りに研究して来た従来の行がかりが強いので、はつきりした一つの課題に集中してしまふと参加する事が困難な人々もあるのではないかと思うので、焦点をかなりはつきりさせても、余り厳密に一点に限定しない方が良いのではないかという意見である。協議会では家族、町村合併、兼業農家等はどうかという説があった。どれも結構であるが、かなりの含みを持たせて、農地改革に影響された家族の問題を来年度の宿題としたらどうかと思つている。会

みを持たせるといふのは、例へば、兼業農家に關心を持つ研究者でも、その角度から研究発表をして討論参加が出来ると思う。或は村の指導者の問題に關心を持つ人はその点から参加出来るので、家族の問題はいろ／＼な点から追求され得る。今の所余り狭く焦点を限定すると窮屈になると思ふので含みを持たせる方が良いと思ふのである。

研究発表及討論について、かりに非常に明白に焦点が限定されていたとしても、今の状況では必ずしもうまく展開されないのかもしれない。それは研究者の発表は多くの地区で個人的になされ、大会に来る迄全然個人的な事が多いから、全体としては比較的多岐に問題が提出される傾向である。これは各地区の共同研究、共同討議が出来ていて、各地区で大会の研究発表者をきめて、大会に臨む事が出来るようになる。大会の運営はるかに能率的、効果的になるのだと思われる。宿題のきめ方にも困難は少くなると思ふので、会員諸兄の御考えを頂きたい。

B 氏 の 場 合

私の意見の第一点は、報告者の数をもう少し減するとともに、報告時間を厳守するようにし、討論の時間をなるべく多くすることである。そして、その報告に対する質疑は報告直後ですませることとし、総合討論では十分に問題について討議をすることができるようにしたと思う。一般に討論のばあいには、細かい質問や技術上の質疑は、個人的にやることにして、総合討論はもちろん報告後の質疑討論も、共通のテーマに集中するようにすべきである。

第二点は、以上のことと関連するが、共通のテーマについて十分な討議ができて、新しい収穫をえてかえることができるためには、テーマをしばった方がよいと思う。テーマをしばるということは、一見して参加者が少くなるように思われるが、たとえば、「農地改革による地主勢力の変遷」というようにしぼるとき、これは、各専攻分野から共通的に研究できるし、いろく／＼の

村について研究しうるはずである。そうすれば、報告しない人々も自分が調査した村ではこうであった、という形で討論に参加でき、各種の調査が出しあわされて、比較分析が行われ、理論的な収穫をえて会を閉ざることができ、本年のような形では、報告大会にはなっても、研究大会にはなりがたい。報告時間を限定して参加者が討議に活発に参加できるためには、報告者の報告主題が明確でなければならぬと同時に、討論すべきテーマも集中できるように限られなければならない。